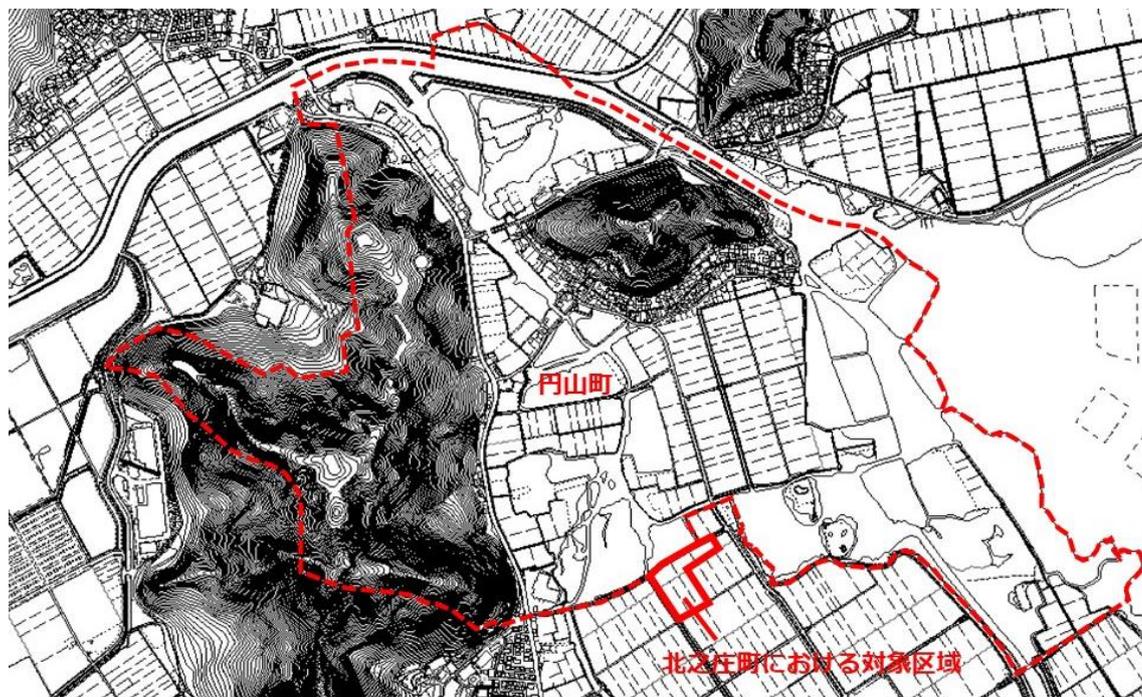


特定区域の区域及び事業活動の内容（近江八幡市）

1. 特定区域の区域

(1) 区域

近江八幡市円山町（点線）及び北之庄町の一部（実線）



(2) 当該区域の特性及び区域設定の理由

円山町と北之庄町は琵琶湖最大の内湖である西の湖の西側に隣接しており、県下でも最大級のヨシ原だけでなく、集落や周辺の水田についても『近江八幡の水郷』として、重要文化的景観の国の選定を受けている。また、近江八幡市では、これらの美しい自然や水郷地帯を守るため、化学農薬・化学肥料の使用基準を設けた農産物を「水郷ブランド」として認定しており、当該区域はまさにこれらを象徴する地域であると言える。

当該区域においては近江米など水稻の生産が盛んである。しかしながら、当該区域においても高齢化が進んでおり、農業従事者については特に顕著である。水郷ブランドを代表する産地として有機米のブランド化を進めることで、既存生産者の生業を守るとともに、魅力的な産業として新規就農者などこれまで農業に携わっていない人々を惹きつける地域として更なる魅力向上を図る。

2. 特定環境負荷低減事業活動として求められる事業活動の内容

(1) 活動類型 有機農業の生産活動

(2) 特定環境負荷低減事業活動の内容

特定区域では、持続的な有機農業の実践を後押しするため、近江八幡市内の学校給食への有機米の提供や有機米をブランド化して高付加価値での販売を目指すなど、流通・販売といった出口戦略を、近江八幡市有機農業産地づくり検討会を中心に地域内の企業とも連携して進める。また、地域の農業従事者の高齢化や空き家の増加などの諸課題に対応するため、新規就農者を迎え入れることにも重点を置き、オーガニックをキーワードとしたライフスタイルに魅力を感じる層に訴求した取組を推進する。これらの取組により、特定区域内での有機農業の面積拡大と産地化・団地化を目指す。

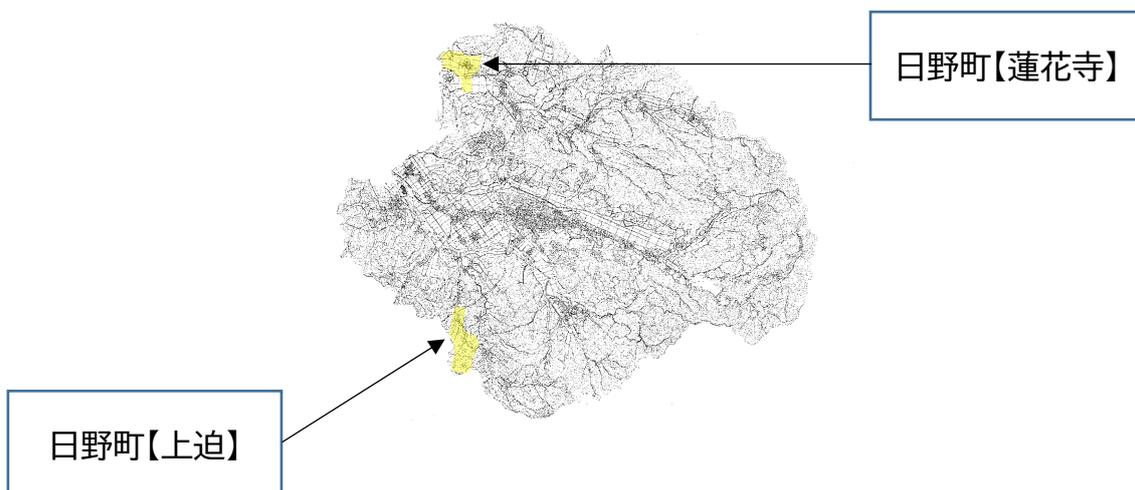
[具体的な活動内容]

- ① 有機水稻栽培に関して、早期湛水や深水管理などによる「トロトロ層」を形成することにより、有機栽培において最も対応の難しい雑草の抑制を図り、安定した収量・品質を確保する生産方式を推進。
- ② 高温登熟性をもつ水稻新品種「きらみずき」のオーガニック栽培の導入を促すことで、白未熟粒等の発生を抑え、有機栽培においても安定した品質を保つ取組を推進。
- ③ 水位センサー等のスマート農機を用いることで、水管理における生産者の労力低減を図るとともに、ほ場から流れ出る濁水を抑制し、河川や西の湖、琵琶湖の水質保全に繋げる取組を推進。

特定区域の区域及び事業活動の内容（日野町）

1. 特定区域の区域

(1) 日野町（西桜谷地区【蓮花寺】、南比都佐地区【上迫】）



(2) 当該区域の特性および区域設定の理由

日野町内では令和5年4月にJAや県、生産者によりJAグリーン近江オーガニック研究会が設立された。この会では、有機米の生産に意欲ある複数の生産者が複数の地区で地域の実情に応じた有機農業の実現に向けて技術実証に取り組んでいる。また、町内には有機農業の推進に向け取り組まれている法人もあり、今後、積極的に有機農業に取り組む以下2地区の特定区域設定を契機として、水稻の有機農業の拡大をより一層推進していく。

・蓮花寺

数年前まで大規模農家が数件耕作していたが、高齢化等により現在では2戸となっている。この2戸が集落農地の7割以上を耕作しているが、北側は山が広がり、獣害や湿田等により耕作、管理がしにくいほ場が集中している。

このような厳しい状況でも、各経営体は環境保全や食の安全等に寄与する持続可能な農業に取り組む意欲を持ち、有機農業に取り組まれていることから、区域として設定する（その他、農泊受け入れでの田植え体験等も実施）。

・上迫

中山間地に位置しており、農地は谷筋の一部で面的整備されているが、大部分は耕作や保全管理が困難な未整備田となっている。また、林縁部へ向かうにつれ、急勾配で畔法面も広くなり、栽培管理するにも苦慮する地域でも

ある。このほか、集落戸数も減少傾向であり、保全管理可能な農地が少なくなっている状況である。

こうした状況下において、農業者の高齢化による担い手不足は顕著であるものの、地域の農業者が少しでも農業所得を向上させ持続可能な農業を続けるため、積極的に有機農業に取り組まれていることから区域として設定する。

2. 特定環境負荷低減事業活動として求められる事業活動の内容

(1) 活動類型 有機農業の生産活動

(2) 事業活動の内容

・蓮花寺

有機米ほ場を団地化し、慣行栽培とのゾーニングを図っていく。また、高性能乗用型水田除草機を活用することで、除草作業の省力化や平準化を図り、高品質の水稲を収穫できるよう取り組む。また、緑肥の鋤き込み等を積極的に行い、水稲の有機栽培において、収量等の安定化を推進していく。

・上迫

環境に配慮した雑草対策として畔法面への防草シートを設置する他、町内他地域と比べ水温が低いことから、きめ細やかな水管理等に努めつつ有機農業に取り組んでいく。また、水稲有機農業の高位安定化に向け、堆肥の投入や緑肥の活用、自走式の除草機やほ場の状況に応じた抑草管理等（複数回代かき、深水管理等）の取り組みにより、消費者の安心、安全、環境に配慮した取り組みを進めていく。

以上の取り組みのほか、両地域を含む町全体において、地域内で生産された有機米の認知度向上に向けた住民意識調査や学校給食での有機米試験導入を実施し、生産者・消費者の認知度・理解度を把握しつつ、その促進に努め、有機米の消費拡大に取り組み、さらなる高付加価値化につなげていく。